一般公募の部 2017年度 第66回朝日広告賞

朝日広告賞

えひめ飲料の課題による森久瑠美さんの作品

オレンジなし「にごり」新鮮

ビル群の向こうで、朝もやに包まれた太陽が淡く光る。太く角張った「ジュース」の字が、甘酸っぱい味を思い出させる。

えひめ飲料（松山市）の「ポンジュース」を課題に、名古屋市の印刷会社員、森久瑠美さん(20)が制作した。3月に卒業した広告デザイン専門学校の在学中に手がけた初応募作品が最高賞に。審査会では、ありがちなオレンジジュース色ではない「にごった色み」が新鮮だと評する声が相次いだ。

写真を撮ったのは名古屋テレビ塔の展望台。友人と2018年の初日の出を見に行った際に何げなくスマートフォンで収めた。応募のために狙って撮ったわけではなかったという。

「ポンジュースだから、愛媛の写真だろう」という審査委員らの予想は裏切られた。だが愛媛は制作の原点で、森さんが小学2年から中学2年までを過ごした地だという。当時は自宅でも給食でもポンジュースを愛飲していた。応募の際は課題の一つ「朝食とポンジュース」を迷わず選んだ。

頭を悩ませたのは、朝食の要素をどう表現するか。片道約1時間の自転車通学中に文言がひらめいた。「ジュース……ニュース……。いけるかも！」

新聞の見開き全面の広告がテレビ画面ほどの大きさになることも意識し、NHKのニュースのようにシンプルなデザインに。「ジュース」の字は、実際のパッケージで使われている字体をそのまま使った。

高校野球漫画「おおきく振りかぶって」のファン。絵を描くのが好きで、デザインの道に進んだ。自らの感性を信じた作品が賞を受け、「自信になりました」。勤務先では中づり広告やパンフレットを手がけるが、今後は空間ディスプレーにも挑戦してみたいと考えている。

入賞作 たおやかな景色 ポンと決着

審査評 佐々木宏

クリエーティブディレクター

葛西薫委員が言った。「今年は、なんというか、景色がいいです」。デザインだけでなく、たたずまいも語り口もたおやかなのである。

児島令子委員は、「今年の入賞作に、イヤなのが、ひとつもない」。そう、そう、例年は、えーなんであれが残るのか、とズバズバ言っていますね。

新顔の中島信也委員は、「ルシードのハゲも楽しんでエエよ、がエエな」とニヤニヤとスキンヘッドをなでながら。同じく新顔の佐藤卓委員、「Zoffの左右読み比べて、じんわり意味が伝わるコミュニケーションが、新鮮でしたね」とメガネが似合うデザイナーNO・1らしい発言。タナカノリユキ委員は「岩波書店も、のりたまも、アレも、そういえば、ソレも」と最後まで、最先端ファッションで迷っていた。

箭内道彦委員は、「（S）と同じのを褒めたくないが、同じになってくやしいです」と、そんな彼を素直ないいやつだと思う（S）だった。

浅葉克己委員と川口清勝委員は、予備審査の粗選り段階から見ているだけに、どれも可愛いわが子の成長を見る目でいた。

進行役の副田高行委員は、奇策に出た。審査会の最後の各委員からの推薦コーナーで、例年は土壇場で、かき回す天の邪鬼の（S）を今年は発言のトップバッターに持ってきた。

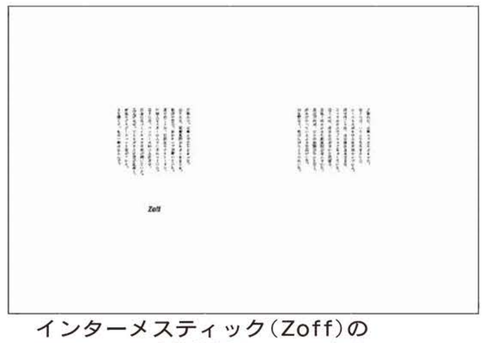
その（S）が「ポンジュースがいちばんです」とポンと言いのけて、このオレンジ色を一切使わずに暗めの写真で、なんだ？と思わせて、ニッコリさせて、一同、一気にファンにさせられてしまった。

マイナビの名刺ズラリもコージーコーナーのウィットもステキだったが、選外だったシュガーカットのデブ文字がグランプリだとかき回そうとも思ったが、自制する（S）であった。

大どんでん返しも、賛否真っ二つもなく、すんなり決まったスリルもサスペンスもない朝日広告賞でした。いいことです。

（S）＝評者

準朝日広告賞



インターメスティック（Zoff）の課題による浅井花怜さんらの合作

マイナビの課題による楠陽子さんらの合作

銀座コージーコーナーの課題による荻原海里さんらの合作

朝日新聞読者賞

だれでも投票できる「朝日新聞読者賞」。朝日広告賞サイトで自由に投票いただいた結果、1万8712票が集まりました。受賞者にはそれぞれ賞状が贈られます。　＝敬称略

■一般公募の部

319票＝トンボ鉛筆の課題〈TOMBOWの文具のブランド広告〉による宮坂和里、山中幸代の合作

■広告主参加の部

1万766票＝CULEN〈新しい地図〉

トンボ鉛筆の課題による宮坂和里さんらの合作

学生奨励賞

学生からの応募促進も踏まえ、学生らしいユニークなアイデアや頑張っている作品をすくいあげたいという、審査委員の皆さんのご意見を反映して新設した賞です。今回、学生の皆さんからは440点の作品応募がありました。3人の受賞者には、賞状と賞金10万円と記念品が贈られます。　＝敬称略

◇資生堂の課題〈「マキアージュ」ブランド広告〉による吉野萌花の作品

資生堂の課題による吉野萌花さんの作品

◇鹿島建設の課題〈100年をつくる会社。〉による和田伊真の作品3点シリーズ

◇トンボ鉛筆の課題〈TOMBOWの文具のブランド広告〉による立田大貴の作品

■ 受賞者一覧

●**朝日広告賞**（賞状、賞金200万円と記念品）1点

◇えひめ飲料の課題〈朝食とポンジュース〉による森久瑠美の作品

●**準朝日広告賞**（各賞状、賞金50万円と記念品）3点

◇インターメスティックの課題〈Zoff SMART（ゾフ・スマート）〉による浅井花怜、釣瓶昂右の合作2点シリーズ

◇マイナビの課題〈企業広告〉による楠陽子、中村洋平の合作

◇銀座コージーコーナーの課題〈「みんなを笑顔にするスイーツ」をテーマにした企業広告〉による荻原海里、志村洸賀の合作4点シリーズ

●**入選**（各賞状、賞金10万円と記念品）10点

◇丸美屋食品工業の課題〈のりたま〉による上杉麻実、川瀬真由の合作3点シリーズ

◇新潮社の課題〈「新潮文庫」新しい読書体験の提案〉による金紗愛、仕子千夏の合作3点シリーズ

◇マンダムの課題〈40才からの、人生とルシード〉による浜野翔子、深沢夏菜の合作2点シリーズ

◇マンダムの課題〈40才からの、人生とルシード〉による桜井万里明の作品4点シリーズ

◇イオンライフの課題〈イオンライフを知っていただくための広告〉による佐藤祐太郎の作品2点シリーズ

◇トンボ鉛筆の課題〈TOMBOWの文具のブランド広告〉による小池茅、河原吉雄、佐藤彩香、小橋柚乃の合作2点シリーズ

◇はとバスの課題〈はとバス〉による鎌田明里、友田菜月の合作2点シリーズ

◇岩波ホールの課題〈「小さな映画館から世界を考える」をテーマにした作品〉による石塚勢二、岩永雄の合作2点シリーズ

◇牛乳石鹸共進社の課題〈カウブランド赤箱（化粧石けん）〉による池野はる香の作品2点シリーズ

◇太田胃散の課題〈若い世代に太田胃散の魅力を伝えるような商品広告〉による原央海、橋本明花の合作

●**小型広告賞**（賞状、賞金10万円と記念品）1点

◇曹洞宗　真光寺の課題〈真光寺「樹木葬」〉による上杉麻実、川瀬真由の合作31点シリーズ

●**審査委員賞**（各賞状、賞金10万円と記念品）2点

イラストレーション賞

◇牛乳石鹸共進社の課題〈カウブランド赤箱（化粧石けん）〉による滝田翔の作品

◇ナイガイの課題〈靴下のマーケットポジションを上げ、快適なナイガイの靴下を普及していける広告〉による熊田かおりの作品3点シリーズ　＝敬称略

受賞作 本とウェブで

入賞作品は、一般公募の部で21賞、広告主参加の部で30賞。今月発行の「2017年度朝日広告賞入賞作品集」（頒価2300円・税込み）に収録いたします。作品集は、朝日新聞SHOP（http://shop.asahi.com/）で取り扱うほか、大手書店で販売予定。

また朝日広告賞サイト（http://www.asahi-aaa.com/）では13日から、朝日広告賞の入賞作品が見られるほか、グランプリ受賞者のインタビューなども載せています。併せてご覧ください。